

井上泰宏(いのうえ・やすひろ)

1986年生まれ 37歳

福岡県北九州市出身。大学卒業後ボートレース関係の会社に就職。2015年から日刊紙記者として若松ボートを担当後、20年から芦屋ボートに常駐。趣味は釣り。車のシート下に餌が転がり込んだことに気づかず、しばらく異臭を放ち続けたのがトラウマ。

台風を呼ぶ? いやいや...

8月末に当初の予報とは大きく進路を変えて九州、中四国を横断した台風10号。直接の進路ではなかった東海、関東圏でも線状降水帯が発生し、各地で順延や中止の措置が取られるなど、その影響はボートレース業界にも大きくありました。担当する芦屋では、28日の準備まで走り終えたところで最終日の29日を中止にすることが決

no.15

人生を揺るがす感動を!

定。売り上げが見込める優勝戦を行えなかったのは施行者としても大きな痛手だったでしょう。準備で唯一の逃げを決めて1号艇を勝ち取っていた岡崎恭裕選手を始め、優勝戦を走るメンバーもガツカリ...と思いきや、意外にもそこまでではありませんでした。29日より30日の方がひどい状況になりそうだったので、順延するならば2日以上の上の順延が必要になりそうな予報でした。そうすれば最終



大物の予感!

イケメン記者の

日を走らずに次のレースに行かなければならない選手も多いため、優出を逃したメンバーも含め「台風はどうしようもありませんからね。自然には勝てません」という声が多数を占めました。個人的にもこの台風の影響を受けました。まがめのSGメモリアルに出張の予定だった30日は、新幹線を含むJRが運休を発表。午前中までは動く予定だった29日のうちに移動することになり、もろもろの事情でそのまま移動すると同時に仕事へ。記者席に着いて諸先輩方にあいさつをしていると「お前が台風を連れて来たんやな。順延もお前のせいや」と暴論で責め立てられてしまいました(笑)。確かに順延はやむなしという台風のルートだったので、なんとまるがめは大きな影響なし! 予定通りの日程で全72レースを終えることができました。メモリアルに限れば、台風を連れてくるどころか、晴れ男でしょう。いちやもんを付けたら先輩には、今度会った時にご飯でもごちそうになるうと思えます(普段からはごちそうになっっています)。そうそう、まるがめで久しぶりにお目にかかったマクルの上杉さんは、月末ということもあって締



宮地元輝

熱烈推しも実はにわか?

今月のメインは濱野智紗都さんのお話。マクルで「ちよっとこぼればなし」も連載もされているので、読者の皆さんおなじみでしょう。まるがめのメモリアルで数年ぶりに会って、若い時からの仲なのもあってお互いに「老けたな

め切りに追われてひどくやつれてしまっていました(笑)。働き過ぎには注意して、ご自愛ください。優勝したのは馬場貴也選手! 予選を16位で突破し、準優は珍しい伸び型の調整で展開を突いて1着。そして最後は伝家の宝刀・3コースまくり差しを決めての大会連覇でした。詳しくは本誌10月号をご覧ください。スマホマクルの有料コンテンツ「月刊デジタルマクル」で過去の本誌もさかのぼって見ることができるのでおすすめです(宣伝)。



「〜と時の流れの残酷さを感じて」と語り合いました。濱野さんと言えば、宮地元輝選手のファン「ミヤマニア」としても有名ですね。ただ「本当のファンからすると実はにわかなんです」と、意外にもファンになったのはここ2年ぐらいいのことのようです。このきっかけが素晴らしいので、ここでお知らせします。

結婚、出産を経た濱野さんは、東京のスタジオでの一般戦の撮影をメインに仕事復帰。「ありがたいうちに徐々に仕事量も増えて行ったところで、SGのスタジオでの仕事ももらえたんです」。外から見れば順調にキャリアを積み重ねているように見えますが、この裏には大変な苦勞もありました。注目度の高いSGの撮影は普段よりも情報量が多い分、仕事に対する準備も増えるそうです。それでも家に帰ると一人の妻であり母。

いつも通りに家事や子育てが待っています。しかもお子さんの夜泣きがすごくて「ほとんど寝られずに仕事に行くこともありました」と、過酷な状況になることもあったようです。準備が追いつかず「こんな状態ではSGの担当なんて自分にはできない。仕事をさせてもらうのも失礼」だと思っ、辞めることも考えるほど追い込まれることもあったそうです。

ひとつのターンが人生を変える

昨年、芦屋で行われたSGオールスターはまさにそのタイミング。そこで見たのが宮地選手のレースでした。2着ではありましたが、2日目10Rで見せた宮地選手の代名詞とも言える深い踏み込みからのまくり差しに「すごい！このターンは何？ どうやってんのか？」と目を奪われ、一瞬でとり



こになってしまったようです。ここからは「もうストーカーみたいなもんやで（笑）」と、過去の宮地選手のレースはもちろん、インタビュ記事などを片っ端から探しては読みあさったとのこと。宮地選手の個人的なキャラクターはご存じでしょうが、それも強烈に刺さったようで、それからはご存じの通り「熱烈な推しに。宮地選手がいなければ、あのタイミングであのレースを見なければ、私はこの仕事を辞めてしまっていたと思います。人生を変えてもらったポイントレーサーなんです」。

レースだけでなく、人柄もすてきなのが宮地選手。この写真を撮らせてもらったのは、メモリアルの準備後。そう、3着を走っていたながらも3周ホームで舟が暴れて深谷知博選手と激突して妨害失格となってしまったレースの直後で、「申し訳ない。選手になっ

てから初めてのこともかもしれない」とファンへの謝罪とあまりに制御不能具合に頭を悩ませていたタイミングなのです。それで腕には湿布を貼っているし、「満身創痍なんで」とこの表情なんです。快く撮影は受けてくれていて、決して濱野さんを嫌がっている訳ではありません（笑）。写真を撮っている時に周囲にいた選手から「公私混同だ」「職権乱用だ」と冷やかしてもありましたが、ちゃんと仕事用です。もちろん濱野さんには「データーを渡していますが（笑）」。

濱野さんが「書けへんし、書き切れへん！」とのことで、こちらに書かせて頂きました。正直に言っ、濱野さんの熱と感動、感謝を伝え切れた自信はありません。「百聞は一見にしかず」と言ってしまうは記者として情けないですが、これからも精進します。